

解放地域への「偉大なる帰還計画」

第2次カラバフ紛争勝利(20年11月)の結果アルメニアによる占領から解放された地域(解放地域)の復興開発、住民帰還の取組が進展しています。アリエフ大統領は、数十万人に上る国内避難民(IDP)の故郷への帰還を「偉大なる帰還(Great Return)計画」と名付け、国家の最重要課題として推進しています(今年度の解放地域の復興事業費は、予算総額の9%に当たる30億マナト(18億米ドル)を計上)。住民帰還目標を、26年(6万6千人)、30年、40年までの3つのステージに分けて策定中です。住民帰還の事例を幾つか紹介します。

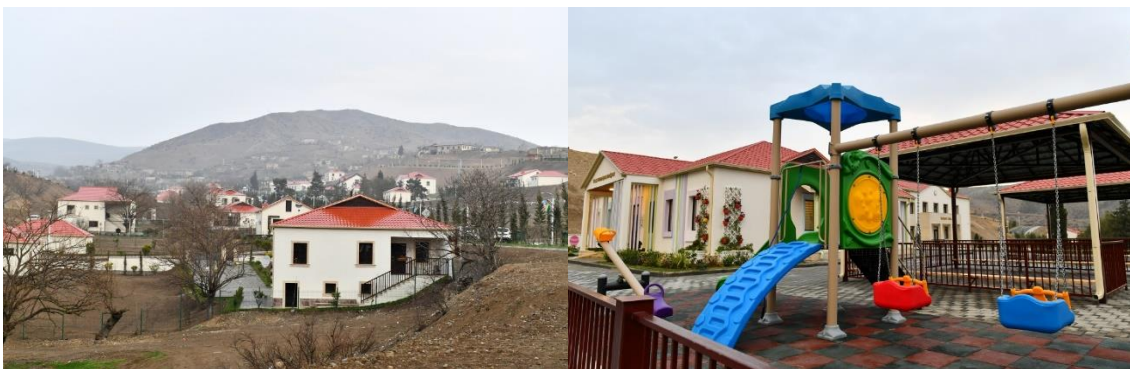
・ゼンギラン県アガル村

22年10月、解放地域で最初に住民帰還が行われた村で、再エネ設備・電子行政サービス等が完備した「スマート・ビレッジ」です。約100世帯・500人弱が戸建て住宅に入居しています。



・テルテル県タルシュ村

23年3月に完成し、最初の20世帯・90人が入居しました。学校、幼稚園も整備され、最終的には180世帯の帰還が計画されています。



・ラチン県ラチン市、ザブフ村、スス村

アルメニア国境に位置し、近くをアルメニアとカラバフのアルメニア人居住地域を繋ぐ道路が通る戦略的重要性から、政府はこれらの市村への住民帰還を優先的に進める方針です。ラチン市では今夏に帰還が始まり、年内に1000人が帰還予定。ザブフ村、スス村では合計300戸の戸建て住宅が建設される計画で、年内に帰還開始予定です。

・フズリ県フズリ市ほか

解放後いち早く21年に国際空港が開港したフズリ県では、26年までにフズリ市と10村が再興される計画です。フズリ市では年内に36棟のアパートが建設され、来春には860世帯が入居予定です。また、デブラトヤルル村は、2番目の「スマート・ビレッジ」として開発されます。

・アグダム県アグダム市ほか

かつてカラバフ地域最大の都市だったアグダム市は、今後も復興開発の中心であり、最終的に15万人都市となる計画の下、高層アパート、病院、学校等が建設中です。近隣のフドゥルドゥ村、キャンギャルリ村、サルジャル村とともに、24年以降に住民帰還が始まる予定です。



(以上)